

算数・数学

学びの質を高めるための授業構想の在り方

指導事例 小学校6年生 単元名「並べ方と組み合わせ方」

ステップ1 資質・能力の明確化

学習評価は、学習指導要領に定められる目標に準拠して実施されます。単元の目標を作成し、目標を踏まえた評価規準を作成することで、育成を目指す資質・能力を明確にすることができます。

〈単元の評価規準の作成の手順〉

小学校 算数では、

- ・「内容のまとまり」をそのまま単元にすることができない場合がある
- ・文言の書き方がそろっていないことから、以下の手順で作成します。

内容のまとまりごとの評価規準 (例)

↓ 評価規準の文言を具体的な書き方で表現をそろえる

具体的な内容のまとまりごとの評価規準

↓ 単元に合わせて、内容のまとまりをそのまま用いたり、分割したり、組み合わせたりする

単元の評価規準

思考・判断・表現の評価規準 (例)

図や表を適切に用いたり、名前を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道を立てて考えることができる。

※「考えている」だけでなく、考えて筋道を立てて答えを出すことができることを重視していることから、文末を「～できる」としています。

ステップ2 本時のねらいの吟味

働かせたい数学的な見方・考え方や育成を目指す資質・能力を基に、児童生徒がどんな姿になればよいのか具体的な姿を想定してねらいを検討しましょう。

本時のねらい (4/6)

組み合わせについて、事象の特徴に着目し、落ちや重なりがないように、図や表を用いて考えることのよさに気付く、順序よく筋道を立てて考えることができる。

「落ちや重なりがないように考えていくことは、思考や表現の方法を工夫することや、筋道を立てて考えていくことにつながるものである。多様な考えに触れ、それぞれの考え方のよさに気付けるようにしていく。」といった解説の内容を踏まえて学びの質を高めましょう。



ステップ3 全ての児童生徒がねらいを達成することができる支援計画

児童生徒の反応やつまづきを想定し、全ての児童生徒がねらいを達成することができるための具体的な手立てを準備しましょう。

(例)・A対BとB対Aの対戦カードを準備する ・表の空欄の意味を問う

授業実践例

〈問題〉A, B, C, Dの4チームが、どのチームも、ちがったチームと1回ずつ対戦します。どんな対戦があるか調べましょう。

〈考え〉樹形図



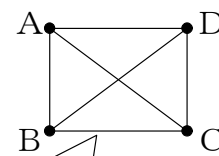
A対BとB対Aは同じだね。



表

	A	B	C	D
A		○	○	○
B			○	○
C				○
D				

図形



ここがB対C。



「5チームについて調べる時はどの方法を使いますか？」

樹形図は、一つずつ重なりを確認できるのでこの方法で考えます。

表を使います。表の半分を使えばいいから落ちや重なりがなく調べられます。

図形の辺と対角線で表せるから、五角形をかいて調べます。